

# クローバー

## MRIを更新しました

当院では当地に移転した際に2台のMRIを設置しました。設置してから12年が経過し画像の質や精度には問題ないものの、故障が増え部品供給にも不安があるため、昨年秋と今年の春にそれぞれを新しい機種に更新しました。3テスラ(テスラは磁場強度)と1.5テスラの2種類でしたが、2台とも3テスラとなりました。新しい機種になり若干検査スピードが早くなったり、今まで造影剤を必要としていた検査が造影剤使用せずにできるようになったりしています。MRIは磁場と電波を利用する検査で放射線は使いませんが、ほとんどの病院が放射線部の管理になります。

放射線による検査はドイツのヴィルヘルム・レントゲンがX線を1895年に発見したことに始まります。ちなみにレントゲンはこの功績で1901年の第1回のノーベル賞を受賞しています。X線による検査は胸の検査のような単純な撮影から徐々に進歩し、1972年には多方向からX線を照射しそれをコンピューター解析することで体内の断層撮影を行う方法が発明されました。これがCTスキャンです。CTスキャンの登場で、それまで脳梗塞なのか脳出血なのか判断できなかった患者さんもすぐに診断できるようになり、治療は飛躍的に進歩しました。その10年後にMRIが登場しCTスキャンと違って

頭蓋骨の影響を受けず任意の角度で検査ができるようになりました。当初は画質も悪く、時間も1回の検査に1時間近くかかりなかなか実用的とはいえませんでした。現在では寝ているだけで血管を調べることができたり、脳の機能がわかるなど以前は夢物語だったことが現実になり、その進歩はめざましく、特に脳神経外科領域ではなくてはならない装置となっています。ただ、MRIでも不得手なことがあります。外傷や骨折などの診断はCTの方が優れています。また、刺青(いれずみではなく正しくはしせいと読みます。)が入っていたり、体内に磁性の金属があったりするとMRIは行えません。ですからCTとMRIをうまく使い分けて、診断を正確に行うように努力する必要があります。その意味では画像診断部とした方が正確ではありますが、伝統的に画像診断を行うのは放射線部となっているため今後もこのままの呼称になるでしょう。



病院長  
山本 信孝





## 第5回親子脳卒中教室を開催しました

## 新型コロナウイルスおよびインフルエンザ等の感染症対策について



対応に関しては常時変更となる可能性があります。最新情報は当院のホームページに